
お星さま

ケリッド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お星さま

【Nコード】

N7891C

【作者名】

ケリッド

【あらすじ】

夜空を眺めると、キラキラ輝いている君がいた。

初めて君に会ったとき、覚えてるかな。

君は男子から可愛い可愛いと騒がれていたね。

僕も初めて君を見たとき、可愛いと思ったよ。

でも僕は目立つ方じゃなかったし、目立ちたくもなかった。

君はそのときは、僕の存在に気づいてなかっただろうね。

初めて話したのは文化祭の実行委員で一緒になったときだったね。

出会って半年後のことだよ？

きつと覚えてないよね。

それからどんどん仲良くなっていったね。

僕は仲良くなりすぎて好きになるくらいだったよ。

気づいてた？

気づかないよね。

だって僕は君に好きって伝えることができなかったから。

でもびっくりしたよ。

君が僕に『好き』って言うてきたことが。

その日の夜、寝れないくらい嬉しかった。

それからたくさん2人だけの時間を過ごしたね。

僕はすごく幸せだったよ？

手を繋いで歩いているだけで。

公園で話しているだけで。

初めてキスしただけで。

君がそばにいてくれるだけで。

僕はすごく幸せだった。

でも、もうそんなこともできないね。

君はいつか言った

『あたしが死んだらどうする？』って言葉。

ごめんね。

あときは君に対してすごく怒っちゃって。

でもホントにイヤだったんだ。

言葉だけでも

冗談だけでも

君がいない世界なんて想像もしたくなかったから。

でも今はそんな世界だよ。

君は星になったよ。

だから僕は寂しくなったとき

キラキラ輝いている星を見るようにしてる。

姿形がなくなっても君はずっと僕の心の中にいるよ。つな気がするよ。

目を閉じる度に、君が笑顔でキラキラ輝いているもん。

君は僕と言う夜空に星としているよ。

僕にはわかる。

『私はいつもあなたのそばにいるよ』

ほら、やっぱりいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7891c/>

お星サマ

2010年10月10日17時33分発行